

この度、大任をお受けすることには、かなりの悩みもありました。



『ご支援を』

同窓会名誉会長 門 道之

勿論皆さん十分ご承知の少子化現象による私学の経営危機、私学の水河期と呼ばれていることにあります。私には、これを持ち越えるこれといった案など持ち合わせないことでした。しかし、これ以上に重く躊躇せざるを得なかつ

「当同窓会名誉会長でおられた母校の神山校長が平成十二年三月をもって平成四年四月就任以来、八年間の永きに亘る任期を終了されました。本同窓会名誉会長としての会長のご尽力、多々感謝申し上げます。ついでには以前まで教頭をなさっておられた門道之先生が平成十二年四月より母校校長に就任されると同時に当同窓会名誉会長として今後の同窓会活動にご協力いただくことになりました。当同窓会へのご指導並びにご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。」



第 35 号

発行所

〒157-0065

東京都世田谷区成城1-13-1

武蔵工業大学附属中・高等学校内

電話 03-3416-4161

発行責任者 金野和彦

編集責任者 清水茂

『同窓会』は第42回柏苑祭に参加しています



総会・懇親会へのお誘い

卒業生の皆様、ぜひお出かけ下さい

日時 2000年11月17日(金)
・18時30分より総会・19時より懇親会

場所 中国菜館 ^{かりん}花梨
(渋谷東急文化会館4階 TEL.03-3409-5633)

会費 個人参加 4,000円(食べ・飲み放題)
グループ参加(同級生・先輩・部活仲間に声を掛け合って3名以上のご同伴で)

- ・3名参加 = 10,000円
- ・4名または5名の参加 =
追加1名につき3,500円
- ・6名以上での参加は上記3名参加2グループとします。

〈会費は当日受付にて。多数の参加をお待ちしています。〉

「お詫び申し上げます」

同窓会紙「柏」35号(本号)は本年二月末発行の予定で準備を進めておりましたが、発行に併せた編集の遅れ、並びに諸般の事情が重なり九月発行となりました。ここに謹んでお詫び申し上げます。

編集責任者

た要因は別にありました。これも皆さんご存じと思いますが、来年度、高校が五十周年を迎えることになりました。この五十年間の先輩諸氏の築いてこられた歴史と伝統及び一万余の卒業生の皆さんの卒業後の活躍を思うと、大変に重いものでした。しかし、お受けさせ戴くことになったわけでありませんが、これもある友人より「君自身五十年間の中の三十五年間も中ではいたではないか」のおしかりのような妙な激励の言葉によるものでありました。

思えば昭和四十年三月、ある恩人のご紹介を戴き、長浜校長先生にお会いできたのが私の今日の始まりでありました。何故か、この年になると古いものほど記憶が鮮明になるもので、当時の武蔵工の状況が手に取るのごとく思い浮かびます。私がお世話になった前年即ち昭和三十九年は、終戦っ子と言ういわゆる第1次ベビーブームの年に当たり高校入学に当たっては大変な年でした。本校も、例に漏れず大変な競争率で、テレビの話題になったやに伺っています。

しかし、これも一年のみのことで、昭和四十一年度高校二クラスの定員すら危うい状況となってしまったことも、かなりの皆さんの記憶にあるところと思います。中学と言えば、まだまだ公立志向が強く、本校も四クラス二百名の定員確保に躍起になっており、やむなく各小学校に推薦依頼をし、実に百六十人も推薦入学者を認可しなければ定員確保も危うかった時期でもありました。放課後の小学校回りもこの時期からで、あの厳しい経験は、いまだに体に染み付いています。このように、生徒募集には困難な時期ではあったものの、校内はクラブ活動を始め行事等が活気にあふれ、中でも体育祭の仮装行列での爆笑がいまだに聞こえてきそうであります。

昭和五十四年、全く突然の話であつたわけですが、教頭職を命じられることになりました。この時は、今回以上に困惑の極みでありましたが、要請ではなく職務上の命令ということで一件落着させられた思いが今でも残っています。この年度には、珍しく大きな人事



の異動があり、学校長も昭和五十一年度より武蔵工大から石川静一先生をお迎えしていましたが、板東忠彦先生を新しく学校長にお迎えいたしました。しかし先生のご都合で翌年には、熊谷行夫先生を学校長としてお迎えするといったまことに落ち着かない三年間の学校の状況がありました。この時期には、公立学校内における暴力事件の多発や、いわゆる「ゆとりのある教育」の不人気等も重なり、次

第に私学の教育が見直されることとなり、数年後これまでにない私学ブームを生み出しました。

平成四年三月末に熊谷先生のご勇退により再度、武蔵工大より神山光男先生を学校長としてお迎えすることになりました。検定制による武蔵工大への進学制度をより確かなものへと築き上げることにあります。

以上のように、五人の校長先生にお世話になってまいりました。教わることはばかりで何一つお手伝いできなかった感であります。このような先生方の後を、しかも私学にとつて過去に経験のない少子化現象の中で、責任者として私でよいのか正直申し上げて悩みましたが、強力な先生方の力を得ることで、即ち学校あげて武蔵工ブームを引き起こすべく頑張る所存であります。と申しましたが、学校というものの、中でも私学は、卒業生の皆さんあつての学校と心得ております。どうかこれまでにない皆さんのご支援とご意見を頂戴致したくお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

理事会報告

事務局長 阿部 俊夫

一 学校長の交代について

平成四年に武蔵工大土木工学科教授兼任で学校長として赴任されました神山先生がこの三月で退任されました。学校長は同窓会にとりましては名誉会長を務めていただきました。土木のご出身なだけに豪放磊落でいらつしやりながら、我々に対してもご丁寧に対応いただけてまいりました。熊谷元校長に続き、同窓会の占める地位につきましても多大なるご協力をいただきました。神山先生のご退任に際し、同窓会として心より謝意を申し上げます。

尚、後任の校長として教頭を務められておられました門先生が就任されました。五十周年を前に学校と同窓会の一層の協力関係が求められる時期、母校と同窓会の発展のためによりしくご指導いただきますようお願い申し上げます。
二 創立五十周年について
今年の新生は五十期生となり

ました。何度かお知らせいたしましたように二〇〇一年三月で高等学校創立五十周年を迎えます。学校でも昨年末に前島教頭を中心として、五十周年の準備委員会が設立され、準備が始まりました。

同窓会では二年前より種々の検討をしており、主催者である学校の活動開始を待つておりました。三月二十五日には学校の準備委員会からの呼びかけで、共催を予定しております同窓会とPTAを加えて拡大準備委員会が開催されました。

記念式典の実施、記念誌の発行、記念事業の実施、etc. いろいろな企画が出されました。しかし、学校側も同窓会も裏打ちとなる資金が無いのが実情で、企画の実現が困難な状況です。

同窓会としては、「主催者である学校側の主体的な動きに合わせ、出しゃばりすぎず、遅れずに」を基本スタンスとして対応してまいります。

五島育英会も学生数の減少対策の一環として、武蔵工大の拡張に主力を置いており、付属高校の記念

式典にまで金が回らないようです。

三 同窓会縮成二十五周年について

現在の同窓会は一九七六年十月十七日に成城学園に移転した母校の体育館において設立総会を開催いたしました。三十五年前に一度同窓会が結成され四年前活動した経緯がありますが、その後活動が中断、前期の日に再建総会が開催されました。

学校の認知が得られず、会計の不安定な中で頑張ってきた最初の十年。名簿作成から、卒業生の全員加入、各種行事の開催と発展を目指した次の十年。安定期に入り、今後の方向を模索し始めた最近。その時期時期でいろいろな節目がありました。それらの過程を経て二〇〇一年十月十六日にて満二十五周年となります。

同窓会の会計状況・母校の五十周年そして同窓会の二十五周年。同窓会にとっても結成以来最大のテーマの重複する年です。「資金がない」と言うことは知恵を絞りがいがある」を合言葉で理事役員は知恵をしぼっております。更により一層企画を推進していくた

め、実行委員会も設立されます。

しかし、日常的に話し合っている役員だけでは井の中の蛙となっているかもしれません。皆様の知恵が、お便りが千人力です。皆様のご意見は郵便でも、メールでも結構です。今後とも多大なるご協力をいただきますようお願い致します。

四 「ゆびとま」サイトについて

Yahoo「ゆびとま」サイトに我々の同窓会ページがあり七月二十五日現在一四一名の方が登録されております。同窓会として独自のホームページを開設するまではこのサイトを利
用していきたく
いと考えてお
ります。同窓生
であり、イン
ターネット接
続が出来る方
であればどな
たでも無料で
参加できます。
あなたも気軽
に覗いてみま
せんか。

同窓会サイト
 (この指とまれ)
<http://yubitoma.sphere.ne.jp>
 同窓会事務局メールアドレス
abe5pp@rc4.so-net.ne.jp

第24回総会報告

1998年度(1998年10月1日から1999年9月30日)活動報告

- '98.11.13 第23回総会 於 東急ゴールデンホール
第1号議案～第6号議案 すべて原案どおり承認されました。
懇親会 於 東急ゴールデンホール
- '98.12.10 第1回理事会
①ホームページ作成について
②総会・懇親会の反省及び次回への提案
③創立50周年について
④会計状況検討
- '99.01.29 第1回「柏」編集委員会
「柏」33号編集方針検討
- '99.02.19 第2回理事会
①50周年記念について(同窓会よりの働きかけ中断の確認)
②総会・懇親会への参加者勧誘について
- '99.03.01 高校卒業式 岩本副会長出席
- '99.04.02～05 「柏」33号発送 3639通
- '99.05.07～09 母校体育祭7・8日は球技大会 9日は棒倒し、騎馬戦、クラス対抗リレー
同窓会賞(図書カード)贈呈
- '99.05.14 第3回理事会
①懇親会会費検討
②その他
追伸 同窓会の生協(?)設立について懇談
- '99.07.06 第4回理事会
①総会関連討議 懇親会会費決定/参加者の増員方法
②会計状況検討
- '99.07.20 第8回武蔵クラシック 越生ゴルフクラブ 会員19名 教員3名
- '99.09.07 第5回理事会
①会計状況の悪化による「柏」発送について
②柏苑祭参加について
- '99.09.30～10.02 「柏」34号発送 3250通
- '99.10.10・11 柏苑祭参加
- '99.10.26 第6回理事会
①総会提出議案検討
②50周年記念開催について 学校側の開催への準備作業について

1998年度(1998年10月1日から1999年9月30日)決算報告

一般会計報告(収入の部)

科目	予算	決算	内 訳
入会金	810,000	795,000	46期生263名、その他2名
年会費	1,800,000	1,557,000	46期生263名、その他256名
引継ぎ金	1,547,825	1,547,825	
雑収入	13,000	2,583	
合計	4,170,825	3,902,408	

一般会計報告(支出の部)

科目	予算	決算	内 訳
会議費	120,000	94,275	理事会6回
総会費	200,000	177,941	
「柏」制作費	50,000	10,000	編集委員会
通信費	1,000,000	680,649	「柏」32号(@80×4,753×0.91) 「柏」33号(@80×3,639×0.91)他
印刷費	850,000	651,645	「柏」32号(8,500部)¥194,860 「柏」33号(9,500部)¥205,700他
発送アルバイト費	200,000	187,000	「柏」32・33号
事務費	50,000	26,146	

同窓会賞費	80,000	98,165
小委員会費	40,000	15,000
名簿整備費	50,000	50,000
柏苑祭費	30,000	52,029
予備費	50,000	0
繰越金	1,110,825	1,859,558
合計	4,170,825	3,902,408

名簿会計決算報告

科目	収入額	支出額	内訳
前期より繰越	133,259		
名簿販売代金	696,800		249冊 (¥2600×2冊を含む)
印刷費		1,170,700	
通信費		8,160	24冊
次期繰越金		-348,801	
合計	830,059	830,059	

第23回総会決算報告

科目	収入額	支出額	内訳
会費	125,000		5000円×25名
寄付金	35,000		
抽選参加費	23,000		500円×46枚
景品代		50,663	
懇親会費		310,278	ゴールデンホール支払い+ウイスキー代金
総会援助金	177,941		一般会計より
合計	360,941	360,941	

繰越金総額

一般会計繰越金	1,859,558円
名簿会計繰越金	-348,801円
合計	1,510,757円

繰越金内訳

定期預金口座	637,729円
貯蓄預金口座	499,527円
普通預金口座	9,916円
郵便振替口座	121,368円
現金	242,656円
合計	1,510,757円

上記の通り 1998 年度の会計報告を致します。

1999年11月12日

会計 上島正義◎ 今井章久◎

会計監査報告

上記、会計内容を監査の結果、正しく表示、掲載されていることを認めます。

1999年11月12日

会計監査 白井泰雄◎

1999年度(1999年10月1日から2000年9月30日)予算案

収入の部			支出の部		
科目	予算	内訳	科目	予算	内訳
入会金	780,000	47期生260名×3000円	会議費	120,000	理事会6回
年会費	1,650,000	47期生260名×3000円 その他290名×3000円	総会費	200,000	総会援助金
引継ぎ金	1,859,558	前期より	「柏」制作費	30,000	「柏」制作委員会費
雑収入	203,000	預金利息、 「柏」広告費、他	通信費	1,000,000	34号・35号郵送費、他
			印刷費	700,000	「柏」、封筒、振込用紙、他
			アルバイト費	200,000	「柏」発送アルバイト
合計	4,492,558		事務費	40,000	
			同窓会賞費	80,000	体育祭同窓会賞(図書カード)
			小委員会費	25,000	小委員会活動費
			名簿整備費	50,000	名簿修正、新会員記入
			柏苑祭費	30,000	柏苑祭準備金
			予備費	100,000	50周年実行委員会会議費、予備費
			繰越金	1,917,558	
			合計	4,492,558	



懇親会報告



理事 神田清人(二十一期生)

第二十四回総会での事務局の緊張が解れ、引き続き隣隣の部屋に準備開催された「懇親会」に席が移った。当日の天気は芳しくなく小雨の中でしたが、なつかしさの為比較的評判の良かったリースナブルな参加費の為卒業生の皆様が同伴者を伴い次から次へと会場入りした。主催者の一員としてホッとして胸を撫で下ろした。

今回は世情を考慮して会場を縮小気味にして開催を試みたものではありましたが意外や意外、参加者数は予想を覆し、前回より大幅に増加。初めて参加された卒業期ひと桁台の大先輩の方々も多勢駆けつけてくださった。今でも交流のある教え子に声を掛けて下さった先生に感謝。
セレモニ―の後、
懇談に入る。
過去の懇親会でもそうであったが当時はクラブ活動が頗る活発であったため、これらを通じての先輩、後輩の



交流の絆があったせいか、中学・高校が同キャンパスに存在している所以なのか、見覚えのある顔を見つけて近寄り話し掛けると、あ！お前か。生きていたのか。年食ったなア、とか。今何やってんの、とか。真っ白じゃん、とか。孫何人、

とかの応酬となった。名刺配りは忘れません。それぞれがテーブルを囲みアツアツの料理とお酒を手を持ち恐る恐る会話に参加してくる後輩と思しき人物。又、仕事の関係で何度か交渉を持つている人達は、実に生臭い話で弾んでいた。先生方も神山校長、前島教頭、中野(偉)先生、尾崎先生さらに須藤先生。大変同窓会でもお世話になった前熊谷校長にもご参加いただいた。諸先生方は永きに亘り勤務されていた方々です。ので古い先輩の方々との会話では懐かしかった修学旅行を皮切りに思い出話



に花が咲き、アルコールが回ってくるにつれ過去が鮮明にもマインドコントロール？され、脳裏に浮かんできた様子。考えてみれば現役の先生は既に四十九期生を本年三月に送ったのである。

卒業生徒の数は数多。印象に残っているのは成績超優秀な生徒か、極上の悪ガキだそうな。特に極上の悪ガキには教師としての苦勞、修行をさせられたとも語っていた。その後、例年の如くお土産の為の抽選会。これは準備の景品選びが命。最小の予算で最大のご満足をモットーに逸品を選んだもの。懇親会幹事の腕の見せ所。景品を手に入れた諸先生、先輩、後輩、ご同輩。うれしさと感激のあまり涙も見せず心に隠し会場を去った。その後は誰が声を掛けた訳でもないが、ご多

本年度の総会・懇親会は
十一月十七日(金)
午後六時三十分より(遅刻可)
会場 花梨(渋谷東急文化会館4F)



も考える「同窓会」。次回の「懇親会」は、十一月十日（金）です。ぜひ、未だ不参加の方ご出席下さい。貴方を夢の世界にお誘いします。（追伸）母校を卒業？された諸先生方もご子弟は不滅です。ぜひご参加声掛け合ってください。

分に漏れず二次会へ。ほとんどの参加者がそれぞれのグループを俄に作り足を進めて街の角を回っていった。何故か時間差はあったが近くの同じバブ会場でありました。（お別れを惜しんでの立ち話が原因と思われる）二次会の予算の懐具合まで

千年紀を迎えて

神山 光男

今年いよいよ千年紀を迎えましたがミレニアムで何かと騒がれております。

「一、二年先の予測も困難な大変革の真つ只中にある今日、ミレニアムもないだろう」「所詮は西暦の数字にすぎない」と醒めた言い方をする人もなきにしもあらずです。

しかし、たとえそれが「借り物の千年紀」であったとしても、変わり目に出会ったことも何かの縁ではないかと思えます。

政府でさえ、ミレニアム・プロジェクトの予算化を図ろうとする昨今です。

時には千年という超長期を思い、人生に比べれば「悠久の彼方」を想い描くのも悪くはないかと考えたりしております。

閉塞状況から抜け出せずに苦闘している経済下で、しばし浮世離れして「新温故知新」（あらためて、ふるきをたずねて、あたらしきをしる）に求めてみるのも一興ではないでしょうか。

ところで、千年紀といわず近年のバブル崩壊後、OBの皆様方のご苦勞は大変なものとお察ししますが、この不況を切り抜けるべく頑張ってください。

私ども、私立学校教育に携わる者として安閑としているわけにはまいりません。

既に就学人口激減の影響が全国的に深まっている状況で私立学校を取り巻く環境、条件など、厳しく予断を許さないものがあるからであります。

さらに、私学振興助成法によって支出されてきた助成金が将来にわたって大幅にカットされるようなことになれば、今後の私学経営にかかわる深刻な問題がでてまいります。

これら諸問題を克服するには、教育の質を高め、独自性を発揮し、学校を一層個性的で魅力あるものにしていくことに尽きると思えます。

そのために、教職員一丸となって教育指導にあたっておりますが、宜しくご支援、ご協力を切にお願いいたします。

なお、学校としましては、五十周年記念事業準備委員会を発足させ、委員長に教頭門道之先生、同窓会窓口担当として小野寺章夫先生を選出し、その他の委員共々準備にかかったところであります。

編集委員会より

この原稿については本年本紙二月発行予定のため編集委員会より依頼させていただいたものです。

現在は母校を退職され、同時に名誉会長も辞任されております。同窓会への長い間のご指導・ご尽力に御礼申し上げます。

第41回柏苑祭に集う

理事 中澤 宏(十三期生)

記事も眺め選び、読む来訪者の方々にはとても評判が良く年月の経過の早さを実感されていた様子



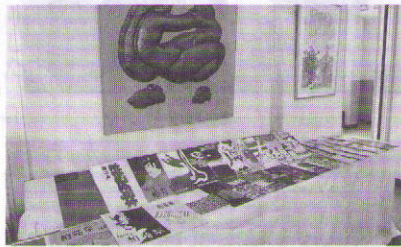
写真、現存しない部活動・同好会の紹介写真等資料造りに大変ご協力いただいた。又、それぞれの時代背景を映し出す、当時の新聞切り抜きトップニュースも併せて紹介掲示した。

昨年十月十日・十一日の両日、母校は41回目の「柏苑祭」を迎えた。同窓会事務局では一昨年に引き続き展示部門として一室を確保。コーヒー・菓子等を準備し卒業生をお待ちした。当同窓会の理事でもある国語科の小野寺先生(五期生)は教務の傍ら過去の卒業アルバムから修学旅行の思い出

表紙・懐かしい表紙を開く来訪者の皆さん。「アッ！俺が書いたクラブ紹介だ」。ページをめくるとそこにはノスタルジックな世界が待っていた。良く保存されていたものである。表紙のデザインも用紙もその時々流行や社会情勢を反映して興味深い。

来訪者の卒業生の方々にも是非、母校にご子息を入学させたいと考えている方も多く、ご子息同伴で受験の相談をする方などで賑わった。

会場に入場してくる母校生徒さんを観察していると最上級生の高校二、三年生は少なく、部活の展示や他校女子学生と共に音楽ライブを催したり招待試合に参加したりと、自分の世界を築いているよ



卒業生の皆さん

第42回「柏苑祭」

当日、母校を訪ねてみませんか！

日時 平成12年10月8日(日)・9日(月) 振替

場所 武蔵工業大学付属中・高等学校
(小田急線成城学園前駅下車徒歩10分/田園都市線二子玉川駅よりバス20分)

新校舎 教室未定

- 本校の歴史、卒業アルバム、年表の展示
その他企画検討中

- 喫茶コーナー 懐かしい母校の先生方、諸先輩、意外な方との出会いが必ずあります。卒業アルバムを見開きながらの歓談・情報交換を！

●進学・入学コーナー 同窓会として会員ご子息の母校への新・入学のご希望に対してアドバイスいたします。

同窓会柏苑祭担当
中澤 宏(13期生)

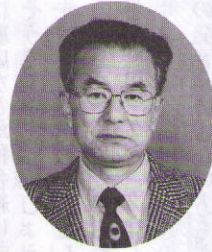
- 学校側としても進学・入学相談コーナーを(柏苑祭)当日設けます。



うである。逆に中学一・二年生の生徒さんは友達と一緒に「何だこの部屋は？」とばかり恐る恐る入室し、黙々とアルバムを開け飲み物・菓子に飛びついていた。

近年は退任(定年)されて行かれる懐かしい恩師が多くなっています。退任された後も是非、私達同窓会を忘れずに十一月の懇親会、又は「柏苑祭」に元気な顔をを見せていただきたいと願っております。

第13期(66年卒)同期会のお知らせ
10月8日 16:00~
成城マダムチャン
問合わせは
龍淵・中澤3302-9937へ

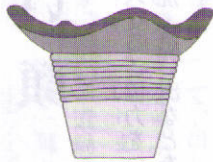


在職三十八年間を 回顧しつつ

社会科
佐藤 善一

昨年五月十九日、満六十五才の誕生日をもちまして武蔵工大付属中高校を定年退職いたしました。顧みますと各地の埋蔵文化財の発掘調査に携わる傍ら、板橋区内の公立中学で教壇に立つて以来、四十一年の教員生活でした。とりわけ一九六〇年から勤務いたしましたムサシでは三十八年の永きに亘り、多くの方々とお会い、身に余る御交誼を賜りましたことは私にとりましてこの上ない喜びとするところであります。

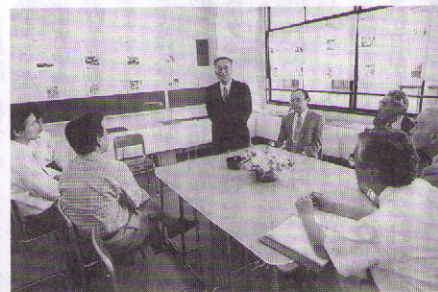
ムサシでの思い出は枚挙にいとまがありませんがその中でも田中義昭先生（昨年三月に鳥根大学教授を定年退官されました）と二人で指導しておりました歴史研究部の夏期合宿で実施した数々の遺跡の発掘調査が懐かしく思い出されてきます。調査は主として横浜、川崎、町田市内の縄文時代や弥生時代の集落跡でしたが、ときには千葉県や埼玉県に古墳や貝塚の調査に出掛けたこともありました。今日、いわゆるプロの考古学者である日本考古学協会の会員は全国



に三千名を数えますが、その多くは大学や博物館の関係者か、地方自治体の埋蔵文化財の担当者です。そんな中に混じって私のような中高校の教員がまがりなりにも三十四年

に亘って、日本考古学協会に一員として遺跡の発掘調査に携わってこられたのもひとえに多くの生徒諸君の協力があつたからこそであり、今、改めて同窓生となられました皆様は心より感謝しお礼申し上げます。退職後は細々でも古墳や古墓に関心を持って

考古学とつき合ひながら折をみては各地の歴史的な世界遺産を探访して回りたいと考えております。末筆ながら同窓会の皆様からの今後の一層のご発展、ご活躍を心からお祈り申し上げます。



《公示》同窓会総会開催について

第二十五回総会を下記の要領にて開催いたします。同窓会会員（卒業生）はご出席下さい。

今回の総会では西暦2001年3月、付属高等学校開校満50年を迎えるにあたり、同窓会として創立50周年記念行事（時期は別途）への参画等について同窓生の皆さんと意見等を交換したいと考えます。同窓会（卒業生）、さらに母校の先生方のご協力ご支援により今後も活動を進めてゆく所存です。

記

日時 2000年11月17日（金）午後6時30分より
場所 中国菜館「花梨」（渋谷・東急文化会館4階）

議題

- 1号議案 1999年度（1999年10月1日～2000年9月30日）活動報告
- 2号議案 1999年度（1999年10月1日～2000年9月30日）決算報告
 - ①一般会計報告
 - ②名簿関係収支報告
 - ③第24回総会決算報告
 - ④繰越金内訳
 - ⑤会計監査報告
- 3号議案 2000年度（2000年10月1日～2001年9月30日）活動計画
- 4号議案 2000年度（2000年10月1日～2001年9月30日）予算案
- 5号議案 役員改選
- 6号議案 その他

懇親会のご案内

総会終了後、同一場所において懇親会を開催いたします。週末の夜、仕事を離れ、懐かしい友や先生方と飲食を共にしながら楽しいひとときを過ごしてはいかがでしょうか。お仕事の都合で総会に間に合わない方でも歓迎いたします。

日時 総会終了後（7時開会予定）
場所 総会と同じ場所（楽しい企画を楽しんでください）

会費 巻頭ページ参照（飲み・食べ放題）

*参加者を増やしたい事務局の意向に是非ご協力ください。

懐かしい顔

当欄では毎号、皆様から多大なるご協力をいただき、懐かしい同窓生の現況・思い出などを掲載させていただいております。

- ①卒業年度 ②最終学年時の担任

波多野 宏

- ①二十六期（昭和五十四年三月卒）
②上原誠之先生

「原稿ではなくつれづれと……」

折角のメールを戴きながら、Reply遅れまして失礼いたしました。現況としましては、年に数回、校舎の横を車で通り抜けるだけというのが、実状です。

15才〜18才という誰もが過剰反応する年代に外部から（高校から参加！）入ってきたものにとつて、最後まで何か溶け込めなかった、という印象はぬぐえませんでした。後で聞いた話では慶応など幼稚舎組は強力な徒党を組んでいるそうで……まあ、しょうがないんでしょうね。先生方も全体の割合としては、余生を送られてる感じを多く見受けられました。一部、数学、化学、歴史、ゲンコクなどは別でしたが。特にムサコーは英語は酷いものでしたねえ。T.H.、Lの発音ができない方もおられましたし。訳した

日本語がおかしいとクラス中で騒いでましたら、「これにそう書いてある！」と「アンチヨコ」を出した輩もいたんですよ。生徒のレベルが教師と大きく隔たり過ぎて、先生の方が諦めていたのかとも考えられます。（どっちが低いかは別として）

入学して驚いたのは球技大会です。サッカーを見てましたら、バックスから割ったビール瓶振り回して攻撃してくる？のがいました。普通はボールを追うのですが、そのバックスから逃げないといけない、という複雑なフォーメーションでした。苛めはありましたねえ。授業が終わると同時に後ろのドアからすつ飛んでゆき、始まると同時に帰ってくるのです。五・六人に捕まると逃げようがないからです。先日、再放送で見た「バラキ」のようでした。逃げる、追うという捕物帖では、授業中に怒った教師が、何かを注意し、教室中を二人で走り回るといふ珍事もありました。そのときの教師は冗談じゃなく、本気で捕まえたかった様です。

かくいう私もゲンコクの時間に英語をあからさまに（していたかどうか？）だしてましたら、教師が「キレ」まして、平手で殴られました。しょうがないですけどね。大物氏の思い出は、玄関上の屋根で授業中にビニールボールで野球をやるのですが、当然、暑い夏、ボールが教室に飛び込んでしまいます。大物A氏は、大きな声で先生に「すみませんが、ボールとらしてください」といって、教室に転がっているボールを窓から侵入回収、試合再開を繰り返していました。79年の入学時、ある教科でいつも生徒が騒ぐ

のですが、板書していると教室の後ろから、毎回、ミカンが黒板に投げつけられるという「授業」がありました。高校つうものはホント、迫力があるなあと感じました。その年、その教師は退職、数年後、その生徒も退学になったと思います。

通信簿では初めての絶対評価でしたので、ある教科で「こいつに9をつけなくちゃ推薦がとれないから（他は心配すんな）」というのがありました。ムサコーで唯一「10」をとれた所以です。評価は今考えてもユニークでありがたいと思うことがあります。体育、水泳で種目別タイムで5段階評価すると説明がありました。クラスの人気者、サッカー部のB氏と私は実は泳げなかったのです。そこで江島先生に潜水35m以上で5をやるというわれ、大発奮。B氏は潜水で50、私も45くらいで5を頂戴しました。

クラスメートの思い出話、校舎のことなど通常一般はたくさん集まるかと思えます。しかし、外から入って最後まで異質を感じ続けてしまったのは、10数年の生活環境の違いから来るものが全面に出てしまった感情に起因していたと思います。私ほどではないにせよ、多くのものは同質の思いを持っていたと思います。

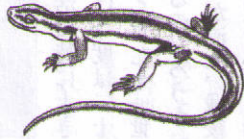
個人的には厳しくなる時代に「個性を大切にしたい」教育より、社会で通用する人間を増やしてゆく手段の一つが学校であると考えています。ただ、ハイティーンという世代に皆が皆、運動に励むわけないし、閉塞感からオウムのような愚説にホレられても困りますし、足を引つ張り合い、日の目を見るゴマすり人間を作っても

と考えますと、あのユニークな人材の幅は今となっては、良い経験だったのかなと少し思えるような気がします。

〔編集者から〕

私も中学時代（尾山台）のある冬の日。授業の合間の休み時間、誰が先導したともなく燃え盛っているダルマストーブの灰にヤカンの大量の水を掛けた輩がいた。教室内は三宅島の噴火の如く一寸先は真っ白。因みに次の授業は当然中止。咳き込みながら隣の教室に一時避難する仲間。さらには昼休み中に多摩川近くの沼地で捕獲したトカゲを大量に教室に運び込みチョーク入れに押し込んだ。は虫類が大嫌いな担任の先生は教室に入り授業を開始すべくチョークを取り出した途端、このトカゲが開放され壁を走り回った。先生も教室内を逃げまくりマジで怒り、生徒に犠牲者が出た。

当時は押しつけの偏差値競争もなく、校訓「誠実・遵法・自主・協調」を地で行くチームワーク（語弊があるかも）のある学園生活。国連子ども委員会曰く「日本の子どもたちは過度の競争社会におかれ、子ども期を失っている」と日本政府に改善を喚起しているのですが。原稿を拝読させていただき当時は生徒たちにゆとりある学園生活が保障され、「伝統は失われていない」と安心させられた次第です。



第9回武蔵クラシック報告



開催日 2000年7月20日(祝)
会場 東名御殿場カントリークラブ
(静岡県御殿場市)

平成4年の第1回懇親ゴルフコンペを皮切りに、途中正式名称「武蔵クラシック」と命名し、今回で通算9回目となった同窓会コンペ。2000年を迎えミレニアムコンペ「武蔵クラシック2000」と題し、大会最多の参加者をお迎えし、晴天に恵まれた名門「東名御殿場カントリークラブ」にてスタートすることになりました。爽やかな高原の風を受け、メンバー一同、並びに教員の方々、日ごろのストレスをこの時とばかり発散、大会終了後には生ビールにて親交を深めた。厳しいご時世ですのでお互い名刺交換。小さい仕事でもと生活防衛にも力を入れていた。

●成績並びに結果

順位	氏名	卒期	OUT	IN	TOTAL	HD	NET
優勝	江島 修	教員	38	40	78	8	70
準優勝	岩佐 和彦	17期	41	39	80	9.2	70.8



順位	氏名	卒期	順位	氏名	卒期	順位	氏名	卒期
3	門 道 之	校長	14	三 厨 俊 夫	19期	25	佐 藤 明	17期
4	遠 藤 義 和	12期	15	植 村 嘉 孝	30期	26	熊 谷 政 久	19期
5	沢 正 久	19期	16	井 出 淳 一	17期	27	平 良 弘	19期
6	高 橋 隆	19期	17	丸 山 正 浩	17期	28	尾 形 俊 行	24期
7	古 橋 昭 男	17期	18	野 島 富 雄	19期	29	稲 葉 淳 也	19期
8	渡 辺 真 己	24期	19	宮 原 茂	24期	30	森 莊 太郎	14期
9	西 野 準	17期	20	斎 藤 勉	事務長	31	松 島 康 也	17期
10	鈴 木 文 久	19期	21	稲 垣 俊 介	19期	32	堤 清	教員
11	柿 下 良 治	教員	22	加 藤 直 樹	24期	33	増 田 術 史	24期
12	前 島 巖	教頭	23	杉 浦 直 樹	24期	34	土 田 梯 生	30期
13	佐 藤 浩 治	17期	24	河 野 良 典	24期	35	須 田 真 二	30期

なお次回（第10回）懇親ゴルフ武蔵クラシックのご案内は「柏」36号（平成13年2月末発行）にてご案内の予定です。毎年7月20日（祝）を予定しておりますので是非一度参加してみませんか。

同窓会懇親ゴルフ実行委 宮原 茂 連絡先 03-3703-1541

編集後記

西暦二〇〇〇年問題は金融・生活に特に大きな混乱もなくクリアした。年が明け今度は二十一世紀に向かつてのカウントダウン。が二十一世紀の日本の未来は明るいものとなるのだろうか。バブル崩壊して早や十年の歳月が流れ、戦後の経済成長が続いてきた中、過去の不況でも希に経験する不況(時代により社会状況は異なるが)の長期化である。

企業による生産を主体とした経済成長を担ってきた勤勉な私達の労働力と忍耐力。どこかいつも目に見えない不満が隠されていた……のである。

右肩上がりの経済(政策)に結びついた「税金」は、当然の如く増収となり何もせずとも世界でも希な累進制を敷き、目先の税率の上げ下げを堅持し、国の懐具合は上々。だが国民は賃金が増え、可処分所得も増加した筈なのだが労働時間も生活レベル(時間とゆとり)もそれほど変わらずに土地の値上がりに伴う諸物価の高騰に吸い取られてしまっていた。

土地経済としての日本は称えられて久しいが、税増収を得るための施策としては政府発表「公示価格」として昭和二十年代後半より君臨してきた。土地が財産であると過度に植えつけられ、一億総不動産屋と祭り上げられ、また資

産としての有利性も手伝い銀行も不動産担保融資に走る。本当にそうなのか?売却するつもりもない土地に売却価格を参考と称し、価格を上げただけだったのだ。正しくバッチャルの世界であった。

気がついた時にはこの不動産担保融資が大量に焦げつきこの有様。経営者責任の問責も甘く大企業・銀行を支援するため国民のコンセンサスも得ずに、また国民から借金(将来の増税を担保に)までして穴埋めを試みる。こんな事で景気が到底上向く筈はない。二十一世紀に禍根を残す「政策」が無口で大人しい我々国民を尻目に多少の行財政改革を施し、今後も着々とインフレ政策誘導のもとに続けられていくだろう。苛政猛於虎也。

このままでは二十一世紀まで当然の如くこの不況を引きずり未来は暗闇となるだろう。目先の利益(票・金・利権)を追い求める体質が有る限り。
編責 清水(十四期生)

原稿募集

編集委員会では、同窓生の近況等、皆様の原稿を待っています。“懐かしい顔”コーナー・随筆・漫画等々幅広く記事を探しています。

問合せ 清水 (14期生)
TEL.03-3595-0058
FAX.03-3595-0021
神田 (21期生)
E-mail:
kanda@tka.att.ne.jp

振動輸送のことなら株式会社日東電機エンジニアリング

原料の輸送・篩分け・リサイクルプラント関連機器・ごみ処理関連機器の設計・製作までの業務を行っています。

業務拡張につき、機械設計経験者を募集しています。CAD/WORD/EXCELが使用できる前向きに対応できる方、10月20日までに、メールでご連絡ください。詳細はメールでご返事します。



住所 大田区大森北1-17-13 池田興産ビル6F
TEL 03-3753-5021 FAX 03-5753-5030
E-mail: nit4pp@mx2.alpha-web.ne.jp
代表取締役 阿部俊夫 (14期卒業生)